

- ★ 小田和湾周辺の藻場の現況と再生 1・2
- ★ サザエ・アワビの種苗放流を実施しました 3
- ★ 『荒崎海岸クリーンフェスタ2023秋』開催 3
- ★ 湘南漁業協同組合 設立 広域漁業協同組合の誕生 4
- ★ 県立海洋科学高校の藻場再生への取り組み 4

一般財団法人 横須賀西部水産振興事業団
〒240-0101 横須賀市長坂2-2-2 ☎080-8810-5132
*令和6年4月から電話番号が変わります
URL <https://www.yokosuka-seibusuisan.org>
「西部水産振興だより」のバックナンバーや「小田和湾の藻場環境」のパンフレットがダウンロードできます。ぜひご覧ください！

小田和湾周辺の藻場の現況と再生

1. 概要

小田和湾は、両端を岬に挟まれた東西約2km、南北約1kmの相模湾の支湾です。かつて、湾内ではアマモやカジメ等が分布する等、多様な生態環境が形成されていました。しかし、平成24年頃から、それらの藻場が衰退し、令和5年2月時点でも回復には至っていません。その原因の一つが近年の海水温の上昇に伴い増加した「アイゴ」を始めとする植食（しょくしょく）性魚類の「食害」とされています。この結果、海藻を餌とするアワビやウニの身入りが悪化し、ワカメ養殖も食害の影響を受けて、収穫量が減少する被害が生じており、この現象を『磯焼け（いそやけ）』といいます。

（一財）横須賀西部水産振興事業団では、平成18年と令和3年に撮影された高解像度衛星画像を用いた小田和湾周辺の藻場分布調査を行い、また、令和5年には大楠地区で水中ビデオ撮影を行いました。ここでは、これら調査の結果から小田和湾の現況を解説いたします。

2. 小田和湾の海底地形

図1は最新技術である航空機からのレーザ測量で作成した小田和湾周辺の詳細な海底地形図です。

小田和湾の入り口には佐島漁港と長井漁港があり、周辺は背後の山から続く岩場が沖へ分布して複雑な地形となっています。また、砂地は小田和湾の全域と岩場の間に広がっています。



図1 小田和湾周辺の詳細な海底地形図

3. 海草・海藻と食害生物

図2は小田和湾周辺で見られる海草（種で増えて花が咲く種子植物）・海藻（胞子で増えて花は咲かない藻類）と主な食害生物です。砂地には海草のアマモ類が、岩場には海藻のカジメやホンダワラ類が生育していますが、それらをアイゴ、クロダイ、ガンガゼ、ムラサキウニ等が餌として食べています。

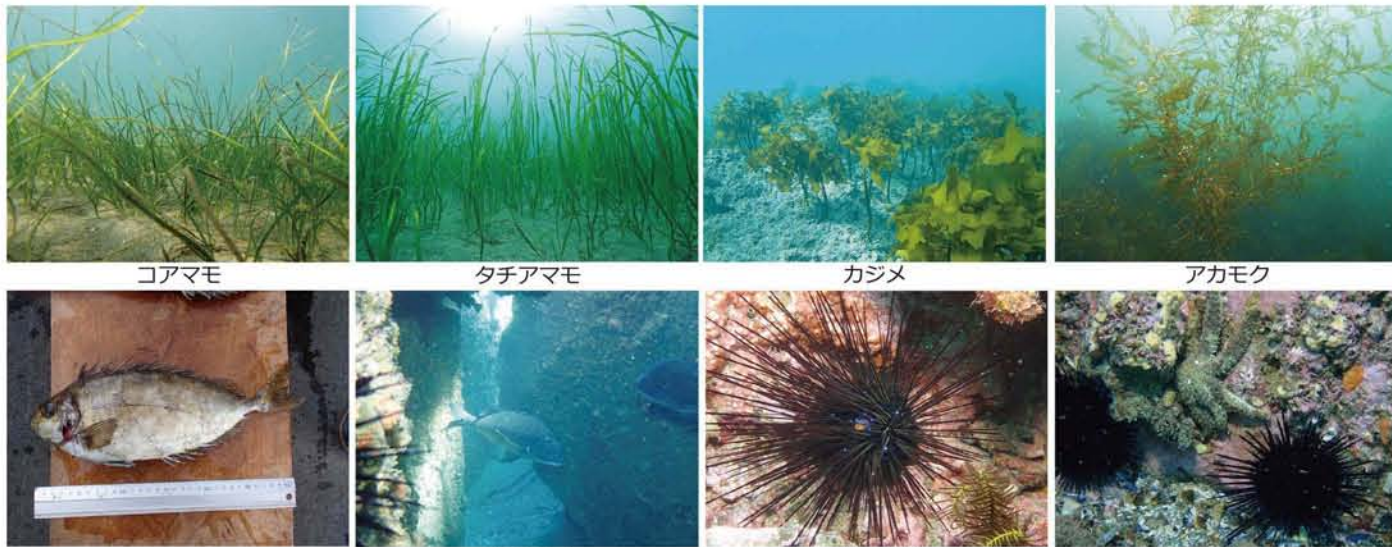


図2 小田和湾周辺で見られる海草・海藻と主な食害生物

4. 藻場の役割と変化

藻場は、魚類の産卵や幼稚稚魚の成育の場、あるいは貝類の餌場として役立っています。また、波浪の低減による海岸の侵食防止や水中の有機物を分解して栄養塩類を吸収し、酸素を供給するなど海水の浄化にも大きな役割を果たしています。しかし、わが国では沿岸域の開発などによる水質の悪化や磯焼けで、藻場は大幅に減少して、漁獲量の減少（特にアワビやサザエなどの貝類）につながっています。

図3は平成18年と令和2年に撮影された衛星画像から、小田和湾周辺の藻場分布を抽出したものです。アマモ場は小田和湾内に広く生育していましたが、その面積は平成18年の42.2haから令和2年の2.1haと約95%減少しました。同様に、カジメ等の岩礁性藻場も348.3haが5.3haと約98%の減少となりました。この傾向は全国的なものです。この傾向は全国的なものですが、小田和湾周辺は深刻な磯焼けになっていることを示しています。

図4は令和5年1月に撮影した海底の様子です。Aの久留和漁港沖（水深5m）ではワカメが、Bの秋谷漁港沖（水深6m）や、Cの佐島漁港沖（水深5m）ではカジメが点在するなど、一部の箇所で藻場の回復が見られました。

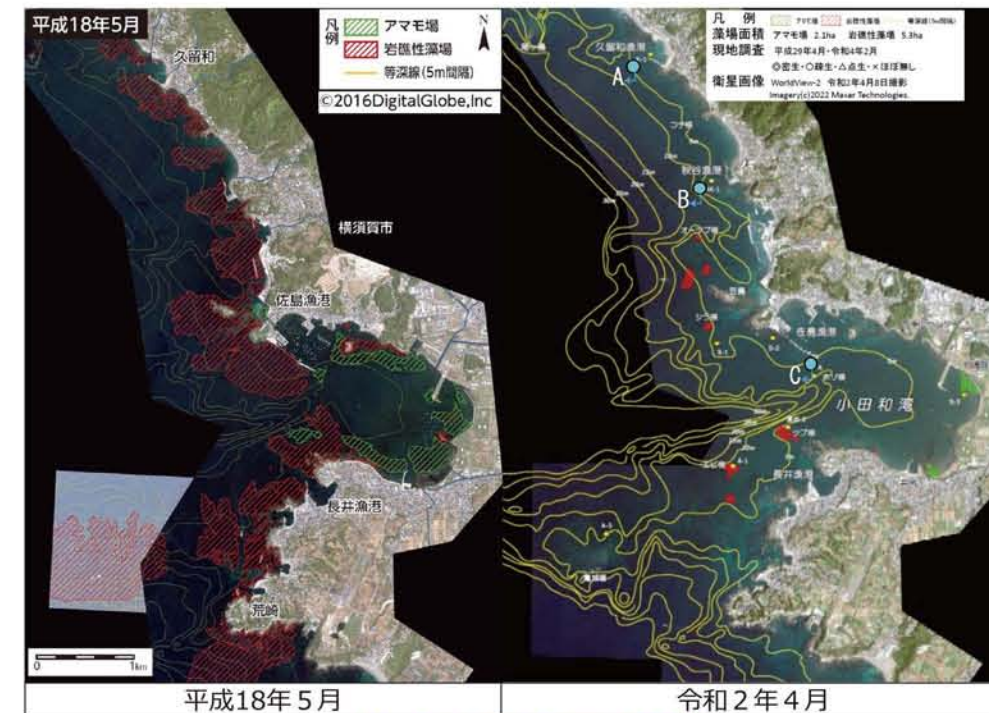


図3 小田和湾周辺の藻場分布の変化

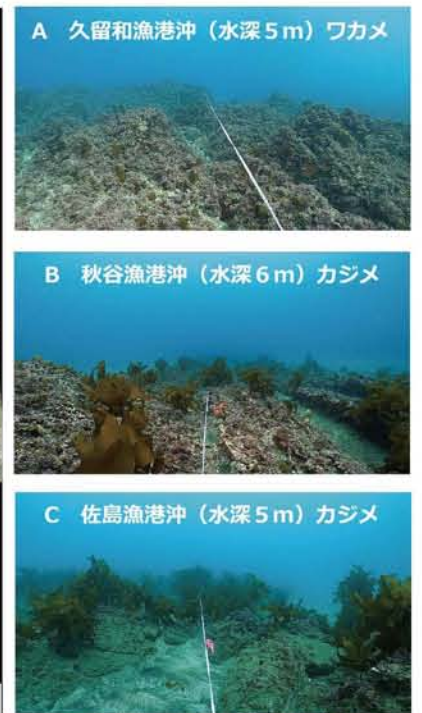


図4 令和5年1月の海底の様子

5. 磯焼け対策

漁業者や行政では藻場を守るために、表1に示すアイゴやウニ類の駆除、フェンスやネットの設置、ホンダワラ類の母藻ネット投入、アマモの種子採取等の藻場維持管理活動を行っています。

表1 漁業者による藻場の維持管理活動

1.食圧の軽減	植食性魚類（アイゴ等）の駆除
	ウニ類の移植と駆除
2.藻場の生産力の向上	食害動物の防除（フェンスや網の設置）
	食害動物の活用（加工食品等の利用）
	母藻の供給（母藻ネットの投入）
	種子の採取・播種（アマモ）
3.その他	種苗の生産・供給
	雑海藻の除去（磯掃除）
	資源調査・管理や漁場の適正利用
	密漁等の漁場監視
	研修会や環境学習・体験漁業の実施
	広報等による啓蒙活動

（水産庁資料を一部改変）

図5 食害動物から藻場を守る



編集 アジア航測株式会社 壺岐信二

令和5年度 下半期の主な事業

当事業団は地域活動の支援、水産振興を事業の柱として、
種苗放流や研修会開催などの事業を行っています。
本年度後半の主な事業活動を紹介します。

サザエとアワビの種苗放流を実施しました。

10月2日(月)

サザエ（平均殻高20mm）
当事業団16,000個と漁協購入分を合わせて、
26,000個を佐島漁港の沖合に放流しました。



11月14日(火)

アワビ（平均殻長30mm以上）
当事業団1,500個と漁協購入分を合わせて、
6,500個を佐島漁港の沖合に放流しました。
（水草が繁茂している浅瀬の岩場）



トピックス

『荒崎海岸クリーンフェスタ2023秋』開催

10月10日(日)

「荒崎海岸クリーンフェスタ秋」が開催されました。
（6月に予定していた2023初夏は大雨のため中止になりました）
荒崎海岸なんやの浜の海岸清掃とカサゴ6,000尾を放流しました。
当日の参加者は約80人で、ゴミ袋を片手に砂浜と岩場のゴミを
集めてもらいました。
次回は、令和6年6月上旬の日曜日 9時～
荒崎海岸なんやの浜 参加無料、
当日現地集合、小雨決行・荒天中止
詳しくは、<http://www.wafa.jp> TEL 045-663-5688



カサゴ放流



参加者集合写真



海岸清掃



岩場清掃

湘南漁業協同組合 設立



湘南漁業協同組合 設立記念式典

広域漁業協同組合の誕生

今年、1月4日に「湘南漁業協同組合」が設立され、1月19日に設立記念式典が盛大に開催されました。

横須賀市から藤沢市まで3市1町にまたがる横須賀市大楠漁協、葉山町漁協、鎌倉漁協、藤沢市漁協の4漁協が合併し、県内では初めての規模の広域組合で、組合員総数は373名と県内でもトップクラスの規模となります。

令和元年度に合併の勉強会が始まり、協議会、設立委員会を経て5年近くの時間を使って設立を迎えました。

この間、新型コロナウイルスの感染拡大が断続的に起きたことから、会議が開けず、協議を進められない時期もありました。また、この過程では、参加組合が諸事情により入れ替わるといこともありましたが、最終的に、まずは4漁協で合併しようという形で合意に至りました。

合併前の各漁協の事務所は、それぞれ支所として残り、従来の横須賀市大楠漁協の支所は地区となります。



設立記念式典で挨拶する福本組合長

組合長には、横須賀市大楠漁協の組合長だった福本憲治氏が就任し、12名の役員（理事8名、監事4名）を束ねます。各支所には運営委員会（旧漁協の理事会に相当）を設け、漁場の利用や組織の運営について、支所が独自性をもって対応できるようにしています。

今回の合併では、漁場も周辺環境も大きく異なる4漁協が「湘南」という名前のもとに集まりましたので、それぞれの特色を生かし相乗効果を生み出すことで、「湘南」の名前を活かして、ブランド価値を高めていくことが期待されています。

合併前の各漁協	合併後の本所・支所 ＜湘南漁協＞	従来の支所
横須賀市大楠漁協	本所 佐島支所	佐島地区、芦名地区、秋谷地区
葉山町漁協	葉山支所	
鎌倉漁協	鎌倉支所	
藤沢市漁協	藤沢支所	



県立海洋科学高校の藻場再生への取り組み



～この1年間のアマモ再生の取り組みを
指導教諭に伺いました～

アイゴ除去に設けた食害防止ネットのおかげで、5月に
植栽したアマモは順調に育っていきました（写真1）。
ただ水温が上がるにつれてネットの汚れが酷くなり、2
週間毎に生徒たちと約2時間海に入り、ネットの掃除をする羽目になりました（写真2）。



作業の効率化のため、交換用ネットを作製する必要があると思いました。

8月に補修も兼ねネットを引き揚げた途端にアイゴに襲われ、9月末に再度植栽し、再び経過観察を開始しました。

11月に入ると、ネット内のアマモがなぜか短くなっていることに気づき、周辺をみると小さなアイゴを発見。ネットの目合いも検討する必要があると思いました。

これらのデータを10月20～22日に行われた「全国アモサミット in ふくおか 2023 高校生サミット」で発表をしました（写真3・4）。

聴講者より「これからもこの取組を続けてほしいとの
激励の言葉やネットの汚れ対策の塗料の紹介や地形
や水質等の違いも調べたらどうかなど、今回もたくさん
の方からアドバイスをいただきました。

今年も植栽をし、小田和湾のアマモを少しでも再生
していこうと考えています。

